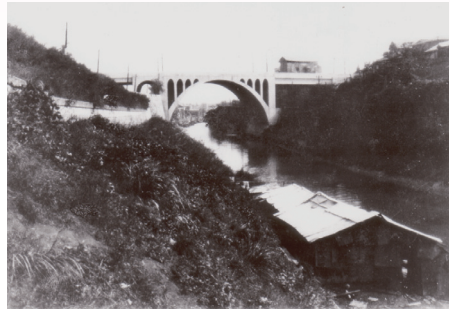
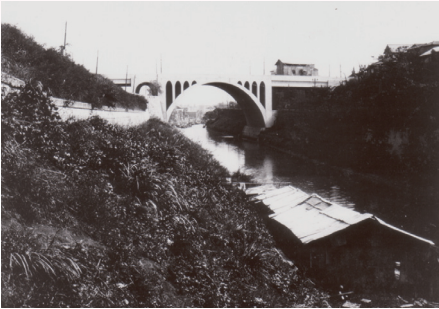
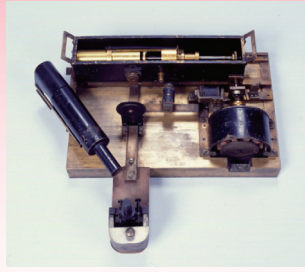
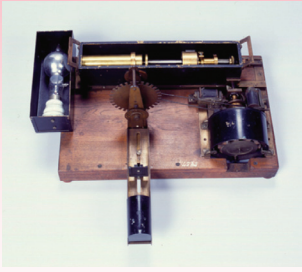


①

画像を電送しようとする試みは、電信技術の発達とともに19世紀中頃から始まりますが、実用的な画像電送装置の研究が進むのは、1920年頃からとなります。光電管や増幅用真空管の発達が実用化を可能にしました。国外では1924（大正13）年からの数年間でドイツのコルン式やシーメンス社とテレフンケン社の共同開発によるSKT方式、アメリカのATT方式などが相次いで開発されました。我が国でも日本電気の丹羽保次郎や小林正次らが研究を進めていました。

1928（昭和3）年11月10日に京都で昭和天皇即位の大典が行われることになりました。この模様をいち早く各地に写真入りで伝えることは、報道各社にとって自社の技術と新しい時代をアピールする良い機会でした。各社はドイツのシーメンス・カールス・テレフンケン方式やフランスのペラン方式を導入し世紀の瞬間に備えました。その際、調子の悪かったペラン方式に代わって使用され、大成功を収めたのが丹羽保次郎らのNE式写真電送装置でした。電送結果は外国技術に比べても高く評価され、この分野の国産技術発展に道を開きました。NE式はその後の1930（昭和5）年から、一般公衆用として東京-大阪間の電送写真業務に使用されました。

- ☆顕彰先 : 日本電気株式会社
- ☆所在地 : 〒100-8001 東京都港区芝5-7-1
- ☆展示場所 : 国立科学博物館 上野本館
〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20
- ☆アクセス（最寄駅）: JR上野駅公園口から徒歩5分
- ☆ホームページ : <http://www.nec.co.jp/>（日本電気株式会社）
<http://www.kahaku.go.jp/>（国立科学博物館）



(写真提供：日本電気株式会社①、④～⑦、国立科学博物館②、③)

① NE 式写真電送装置と発明者の丹羽保次郎 (左)、小林正次 (右)

②③ NE 式写真電送装置の送信装置 (左) と受信装置 (右)
(初めて電送実験に成功したときの装置、1928年3月末頃)

④⑤ 電送写真の原画 (左) と受信画 (右)(日本で電送が開始された頃のもの)

⑥1928年11月6日付大阪毎日新聞号外に掲載された電送写真
(皇居より東京駅に向かわれる陛下、東京→大阪へ電送、1928年11月6日)

⑦ 昭和天皇即位の大典の電送写真 (京都→東京へ電送、1928年11月)